

熊本県立熊本西高等学校 令和3年度（2021度）学校評価計画表

1 学校教育目標

「清・明・和」の教えを根幹とし、知・徳・体の調和の取れた文武両道の教育をととして生徒一人ひとりと深く関わり、きめ細かい指導とアカデミックインターンシップや探究活動などの充実した教育プログラムで生徒の可能性を伸ばし、生徒の夢や目標を実現する世界的視野に立った人材の育成を目指す。

2 本年度の重点目標

- | | | |
|----------|-----|--------------------------|
| 1 生徒理解 | ・・・ | 個に応じた、個を大切にしたいきめ細かい指導 |
| 2 学力の向上 | ・・・ | 基礎学力向上、授業改善 |
| 3 人間力の向上 | ・・・ | 基本的生活習慣の確立、マナーやモラルの向上 |
| 4 自己の伸長 | ・・・ | キャリア教育、探究活動、ボランティア活動、部活動 |
| 5 進路目標実現 | ・・・ | 行きたい進路目標（夢）の実現学力の向上 |

高校3年間で「生徒を大きく伸ばす西高」となるよう個を大切にしたいきめ細かい指導に全職員で取り組む。また、アカデミックインターンシップ、インターンシップなどの系統立てたキャリア教育や地域・外部機関と連携した探究活動、ボランティア活動、部活動など、生徒が主体的に活躍する場を与え、生徒の成長を促す。これらの充実した教育プログラムの実施と志望先に特化した進路指導で、進路実績の向上を図り、生徒・保護者や地域の期待に応える。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策
大項目	小項目			
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実と学校行事の活用	・体験入学、中学校説明会の内容充実 ・広報誌（西高新聞や西風）の内容の充実 ・学校HPの随時更新、SNS等を活用した情報発信	・従来の取組内容を精査し、内容の充実を図る。またコロナの状況に対応できる実施方法も検討する ・担当部署、他の部との連携のもと、学校全体として取り組む ・生徒主体を推進し、生徒が生き生きと活躍し成長する姿を発信する
	地域とつながる学校	小中高大の連携 地域との連携	・高大連携事業、西高アカデミックインターンシップ（NAIS）及びインターンシップ（2年生）の推進 ・中高連携の強化 ・地域の英語教育の支援、部活動を活用した高校理解の推進 ・地域の様々な団体と積極的に交流することで、地域での活躍の場を広げる。	・熊本県立大、熊本学園大、崇城大、熊本保健科学大との継続的事業、NAIS参加7大学・2専門学校との連携 ・地域や同窓生の企業や事業所との連携によるインターンシップの実施 ・在校生が多い中学校に複数の担当者を充て、日常から生徒や本校の情報を交換することで関係を深める ・地域のこども園、小学校と連携を取り、英語教育の支援を行い地域に浸透する ・西・南区の各中学校との部活動交流・情報交換による連携強化 ・高齢者支援センターや子育てサークル等と連携しボランティアやサポーター等に積極的に参加し交流を深める

	業務改善・働き方改革	I C T等を活用した業務改革	・学校情報化認定制度において、早期の優良校認定を目指す（校務の情報化） ・学習支援システムやタブレット端末を活用し、業務の改善、削減に取り組む	・Chromebook や GoogleClassroom を利用し、生徒や保護者への連絡やアンケートの実施・集計をオンライン化し、配付・集計に係る職員の業務を削減する ・会議資料や連絡資料をペーパーレス化し、印刷や書類の整理の負担を減らす
		働き方改革の推進	・超過勤務時間の10%縮減	・学校閉庁日及び定時退勤デーの設定 ・部活動の練習日、活動日の月間計画公表 ・業務分担の見直しと職員の意識変容
学力向上	わかる授業 魅力ある授業への転換	授業による学力向上	・主体的、対話的で深い学びを意識した授業実践及び評価の実施 [指標：職員アンケート] 私は授業改善に取り組んでいる（3.5）（前年3.4）	・生徒の個性に応じた学習支援を行い、基礎学力向上を図る ・主体的、対話的で深い学びにつなげる授業改善 ・年2回の研究授業旬間の設定 ・授業見学レポートの活用 ・各教科で観点別評価の試行を行い、次年度から実施に繋げる
			[指標：生徒アンケート] 私は積極的に授業に参加している（2.8）（前年2.6）	・各教科で生徒が主体的に考える授業に取り組み、生徒のやる気を引き出す
		I C T等を活用した授業改革	・一人一台端末を用いた授業や課題の充実 ・学校情報科認定制度の優良校認定を目指す [指標：くまもとI C T指数] Class-KI30（授業時間の30%の端末活用）を基準とし、50（50%）以上を目指す。	・I C T活用をテーマとした授業研究を全教科にて実施。 ・全教科においてChromebookを授業や学習課題等に活用し、モデル授業や職員研修を実施する（1、2年生を中心に）
	計画的な学習指導の充実	計画的な学習指導と適正な評価	・生徒一人一人の学習における課題解決に必要な思考力、判断力、表現力の育成	・授業中の活動やレポート、作品発表に対し、個に応じた評価を行い、意欲向上につなげる
キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育	ポートフォリオの充実	・生徒のキャリアを着実に積み上げ様々な入試に対応	・セルフチェックノート等によるポートフォリオやキャリアパスポートを通して振り返りながら生徒の主体性を伸長させる ・各学年の進路研修会を充実し、全校で情報を共有化
	一人一人の進路目標達成	進路実績	・昨年度を上回る進路実績の実現（進学100%決定・国公立大学20名・公務員指導の充実・就職100%決定）	・全職員による進路指導の充実 ・進路相談、面談の充実 ・個別指導・面接指導・学力検討会の充実
		進路意識の涵養	・夢や希望を与える取り組みの実施 ・アカデミックインターンシップ（NAIS）及びインターンシップの充実	・日本や熊本で活躍する人による講演会の実施 ・生徒の適性を考慮したNAIS及びインターンシップの実施 ・地元企業や同窓会と連携した幅広い受入先企業の開拓

生徒指導	交通安全	交通事故・マナー違反をなくす	・重傷事故ゼロ、交通事故件数一桁 ・自転車ヘルメットの着用	・毎月１１日を交通安全の日とし、学期に１回、警察・育西会・交通委員で交通指導を行う ・交通安全集会で危険箇所の理解と危険行為の撲滅を図る
	基本的生活習慣の確立	時間厳守 爽やかなあいさつ 正しい着こなし	・朝の遅刻者数減 ・あいさつ・時間厳守・服装 [指標：生徒アンケート] (３．７)(前年３．５１)	・職員、生徒会、風紀委員による遅刻服装指導、率先したあいさつ励行
	能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成	・生徒が主体となった行事の企画・運営	・学校行事等において可能な限り、生徒主体への移行やアイデアを取り入れる
		高い志及び目標を持った高校生活実現の支援 (フラスワンの指導)	・生徒が目標を持って、学校生活を送っている	・全職員による様々な場面での声かけ・励まし等の支援 ・生徒会企画への支援
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ＩＳＯの取組推進	・美化・省エネ [指標：生徒アンケート] (３．２)(３．０６)	・掃除箇所、担当を再度見直し、掃除指導の徹底を図る ・こまめな消灯・節電・節水
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	・校内研修の充実 ・特別支援教育の充実	・人権や命の問題についての知識や考察を深める研修の実施 ・合理的配慮、個別の教育支援計画の実施
	命を大切にする心を育む指導	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	・命を大切にする心の育成の充実 ・生徒および職員の心身のストレスの軽減	・授業等で命の大切さについて学ぶ機会を各職員が２学期までに１回以上設定 ・リラクゼーション等の知識や技能の定期的な啓発と促進 ・西高コミュニケーションサークル(ＮＣＣ)の実施
いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	・いじめ解消率１００％ ・生徒会による取り組みの充実 ・外部専門家の活用推進	・本校いじめ防止基本方針に従い、未然防止および早期対応の実施 ・本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用 ・生徒会による取り組みへの指導、支援 ・ＳＣ、ＳＳＷ、医療機関等との積極的な連携
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域・保護者・関係機関との連携	学校と地域の連携・協働のあり方	・学校行事(創立記念祭・チャレンジウオーク・避難訓練等)と通した交流事業の充実	・地域住民や関係行政機関、保護者との連携 ・近隣小・中学校、地域との積極的な交流
		(総合型)学校運営協議会の設置	・(総合型)学校運営協議会による学校評価や本校取組の検証並びに地域(学校)防災体制の強化	・学校運営協議会を年３回実施(うち１回は防災に特化) ・地域と一体となった防災システム及び災害時連携体制の強化

特 色 あ る教育	理数科・サイ エンス情 報科の充実	研究活動の充実	・サイエンス情報科の教育活動の実施と校外へのPR ・高大連携による実習の着実な実施 ・発表会、コンテストでの入賞	・サイエンス情報科の活動の充実及び外部への積極的な情報発信 ・大学との事前協議の充実 ・科学イベントへの積極参加 ・課題研究の進め方の改善や講座内容の調整
		志願者の増加	・特色的な教育活動を積極的に中学校や地域へ発信	・サイエンス情報科体験プログラムの実施 ・学校説明会でのPR実施
	体 育 コ ー ス の充実	専攻授業・実習の充実	・競技実績の向上（全国大会出場者・入賞数を増やす）	・専門知識並びに技能の習得を目的とした講習会・実習の実施
		志願者の増加	・県内中学校との連携を図り、開かれたコースを目指す	・ポスターやチラシを用い県内中学校へ配付する ・部活動見学会など体験的な行事を計画する ・近隣中学校との交流活動の充実
新 型 コ ロ ナ ウ イルス	新型コロナ ウイルスへ の対策	新型コロナウ イルス感染拡大防 止対策	・新しい生活様式の習慣化 ・自宅待機者におけるICT機器を活用した学習の支援策 ・オンラインによる集会 ・部活動における感染防止対策 ・学校生活や家庭における感染防止対策 ・新型コロナウイルスを含む感染症に対する教育を実施する ・生徒の心のケア	・授業や部活動を通してマスクの着用・手洗いうがい・手指消毒の徹底 ・人との会話や食事など意識付けと消毒液などの環境整備 ・濃厚接触者等で自宅待機の生徒に対し、オンライン授業等で家庭と教室を繋ぎ、学習の遅れがないよう支援する。 ・各種集会のオンライン化により生徒の接触機会を減らす ・各部への消毒液配付。顧問会での感染防止対策周知 ・学校生活や家庭において、体調管理（健康観察）、3つの密を避け手洗いや消毒等を徹底する ・手洗い、うがい、手指の消毒等を奨励し、不要不急の外出は控え、計画的な家庭学習を行う ・感染症への知識やウイルスと共存する生活等について、職員も共通理解をし、生徒へ周知する ・面談やアンケートを実施、SC等を活用する